

所属・資格 体育学科・助教

申請者氏名 伊佐野 龍司

研究課題		球技における運動空間・時間の構成に向けた実証的研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	球技では、スペースを有効的に活用することで戦術的有利にゲームを展開することができるため、その究明に尽力されてきた。これまでその多くは、統計処理を施された自然科学的手法による知見であり、そうした客観的知見が、体育授業にて採用されている。スペースを物理的空間として捉える一義的視点の下で実施される授業においては、「孤立した技能」の発生を皮切りにゲームに十全に参加できない生徒の存在などが確認されている。申請者は、それらから一線を置いた具体的な顔と名前を持ち合わせた彼／彼女らにとっての「スペース」の意味と価値をありのままに捉えていく必要があるとの考えの下、価値体系論的構造分析を展開してきた。これまでの研究成果や各文献により人間と空間は有意味な関係系の中に位置づき、共通感覚と親和性のあるメタ的な感覚を間主観的に構成していることが明かとなった。そこで本年度は、児童・生徒・学生等の対象が如何様にゴール型ボールゲームにおける時間・空間意識の構成について実証的に研究することを目的とする。
	研究の結果	本研究においては、創発身体知の7領域に対応した調査用紙を作成し、学生65名を対象にしたサッカーの授業において使用した。そして学習者の授業中の動きや記述された調査内容について人間科学の「追-感」をもって「事実の意味」の世界に立ち入り、それを発生運動学の視座から解釈した。記述内容から運動の内観報告を実現させる言語発表能力を有すると判断された考察対象のAは、授業当初、内在経験を感じ取ることが未熟であったが、「自らの動感作用と向き合う段階」から、戦術行動に関する映像・講義を通じて、潜勢運動の成功を契機に、「動感素材を自我身体に統覚化している段階」となった。さらにAは仲間・講座担当者との動感対話を通じて形態化し、ゲームの類型的状況を読み取り「形態化身体知の形成段階」に至った。この段階において、Aが「ボールを持たないときの動き」の創発身体知を「状況の意味構造を読み取り、未来を先読みした上で過去の動きかたや関わりかたの中から決定的な動感を選び出し行動を実現する動感形態」として形成したと解された。この結果から、本研究において作成した調査用紙を用いることで、始原身体知、形態化身体知の「現れ」と「隠れ」を表出し、「ボールを持たないときの動き」の創発身体知の発生分析を可能にしたと同時に時間・空間意識の構成についての言及も可能となる。
	研究の考察・反省	成果の一方で、「問の再検討」が課題として残された。ある質問項目の結果は、他の項目と異なり高い推移を維持していた。他の項目や記述項目の解釈から検討すると、低い推移からゲームの様相が発展していくことに応じて多少の増減を見せながら漸次上昇していくことが予想されたが、それとは反した結果であった。今後は、直感化能力、予感化能力、差異化能力の形成をより把握するためにも、時間化身体知に関する質問項目を詳細に設定する必要がある。また、本研究においては授業時数の関係上、洗練化身体知の形成まで至らなかった。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究発表 日本体育学会「児童の主体性を導く教師の実践知」 2018年8月25日 徳島大学 2018KNSU International Conference -Asia Pacific Conference on Coaching Science- Analysis of movement characteristics of Blind Football players by GPS 2018年10月25日 東京体育学会「ブラインドサッカー選手に対する全身振動刺激のトレーニングがステップ運動に及ぼす影響」2019年3月10日 東京大学 研究成果物 ボールゲームにおける「ボールを持たないときの動き」に焦点化した創発身体知の発生分析方法に関する一考察。 コーチン学研究, 32巻1号 2018年6月 日本コーチング学会	